

ロシア、津波、コロナ いまここにある危機

一年を振り返っていまここにある危機について考えます。まずなんと云ってもロシアがウクライナに侵攻するという信じられない暴挙です。他国に一方的に攻め込み自国の領土にすることをいま隣国が現に行っています。独裁者の国家はあまたありますがそれが狂人だったらどうなるか。北海道に住む人は大きな声で北方四島ロシア基地の脅威を叫ぶべきです。中央にはこの危機感が届いていません。キューバ危機はアメリカの喉元にソ連のミサイル基地を作らせなためにケネディとフルシチョフが核戦争勃発ギリギリの駆け引きを行いました。北方四島は日本固有の領土であつてもすでにロシアの強力な軍事基地になつてしまつています。この先、四島に何を持ち込まれようが実効支配者の勝手に抑止することは出来ません。

での打ち上げから放物線を描いて落下するものとは違い、最新のミサイル技術では一度レーダー探知出来ない低空からホイップして着弾するのでどの国も絶対撃ち落とせないのだそうです。えーっ！だとしたら反撃能力を持つ以外ないじゃないですか。

ウクライナが国内の重要施設に80発でも100発でも打ち込まれて犠牲者が増え続け、電力インフラも破壊され何百万人もが苦しんでいるのはロシアのミサイル基地を叩けないからです。

もしも狂人プーチンかそれを引き継ぐさらに異常な指導者がその気になれば、最短3・7キロメートルの距離にある北方四島から迎撃不能のミサイルを際限なく打ち込まれます。早押しクイズではないので、いまの防衛議論では自衛隊の先制攻撃は難しいのでしよう。最初の一撃は千歳航空基地ほか全道の自衛隊基地に、そして第二撃はウクライナのように地域支配と占領を戦略とするならば道

庁、札幌市役所の機能を無くして、飛行場と港と鉄道を使えなくすれば避難も出来ずに道民全てが人質になります。輸送インフラが破壊されれば支援も届かず北海道は孤立して人質になります。苦小牧と石狩の発電所を破壊すれば復旧不可能なブラックアウトになります。最悪の想定は泊原子力発電所への着弾です。現にザポロジエ原発は何度も非常用電源が入る事態になり、万が一の事態や、ヤケ糞でやる気になればヨーロッパもロシアにも放射能が降り注ぎます。チェルノブイリの事故でさえあれだけの世界的混乱が起きたのですから今度は想像もつかない惨劇です。北方四島からミサイルが発射された瞬間に第二撃を許さない反撃能力が必要です。それこそが抑止力になります。平和ボケした日本ではウクライナ侵略すらも日常のニュースになりつつあります。北海道のこの恐ろしい事態に知事のコメントも避難計画もシエルトア論議もありません。攻めてこないだろうではなく、そうならこうすると備えるのが危機管理です。

ロシアが十年以内にミサイルを発射するような事態がありうるか。数十年以内に30メートルの津波が襲ってくるか。コロナ自粛で弱り切つて一億神経症で能力も気力も劣化した社会経済をどう立ち直すか。それぞれの役割を持つ人たちの新年の意気込みに期待します。P.S. 誌面が尽きましたが津波対策には救命胴衣を人数分備えてください。こちらは来月号で。



筆者紹介 株式会社あかりみらい代表取締役 越智文雄
 1980年北大法学部卒業。北海道電力、電気事業連合会、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。日本除菌連合会長、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、札幌なにかができる経済人ネットワーク主宰。